



## 水道事業について

**問** 山武郡市広域水道企業団による給水事業開始から40年経過しましたが、当該団体が所管する各市町の現在の給水普及率について伺います。

**答** 建設環境部長 令和3年3月末現在の山武市全体（成東・松尾・蓮沼地区）の普及率は、81・8%です。その他構成市町における普及率は、東金市が98・5%、大網白里市が99・5%、九十九里町が92・6%、横芝光町が77・1%です。

山武市と横芝光町においては、他市町と比べ、地下水の飲用世帯が多く、普及率に差が生じている状況です。

**問** 山武市内の各地区それぞれの普及率について伺います。

**答** 建設環境部長 成東地区の普及率は86・6%、松尾地区は72・0%、蓮沼地区は79・1%です。

**答** 水道課長 山武地区の普及率

は51・8%です。

**問** 新しく水道に加入する際に必要となる費用負担等について伺います。

**答** 建設環境部長 山武郡市広域水道企業団に確認したところ、新規加入の際には、水道引き込みのための「給水申込加入金」と「工事検査手数料」のほか、「給水管を引き込む工事」が必要となります。また、配水管が前面道路に布設されていない場合は、「配水管布設工事」が別途必要になります。

**問** 配水管布設工事には、高額な費用負担が必要であると聞きますが、現状について伺います。

**答** 建設環境部長 新規加入時、前面道路に配水管が整備されていない場合の配水管布設費用は、すべて加入者負担となっており、配水管の延長によっては、相応の工事費が発生します。

なお、個人の方が直径50ミリメートル以上の配水管を布設する際には、助成制度があり、配水管の材料費と配水管布設に係る労務費は、山武郡市広域水道企業団が負担すると聞いています。

**問** その助成制度があつても、工事費の負担は高額であると考えますが、市の見解を伺います。

**答** 市長 水道事業への加入者負担については、これまでの経緯もあり、負担の公平という立場から、必要な負担としてお願いしなければならぬ

ものと考えています。また、水道事業は広域事業として展開していることから、市独自の支援について、現時点では考えていません。

## 自然災害(大雨洪水)の対策について

**問** 近年の大雨による市内の被害状況について伺います。

**答** 総務部長 令和元年10月25日の大雨では、市内の河川が氾濫し、山武や成東の一部地域において、床上浸水61件、床下浸水48件の被害報告があり、そのほか、松尾町の豊岡地域や市内海岸線においても、道路冠水等を確認しています。

**問** 蓮沼の海岸地先は、海拔が低く、大雨のたびに道路の冠水や排水路の氾濫が見られる状況ですが、今後の洪水対策について伺います。

**答** 建設環境部長 本市沿岸部地域の排水は、排水ポンプを使用した強制排水がほとんどで、特に蓮沼地区については、栗山川河口部分にある湛水(たんすい)防除施設に頼らなければならない状況にあります。

今後、道路冠水箇所周辺の水路や側溝も含め、市の管理する排水施設が適正に機能しているか、再度確認を行ううえで、必要な箇所の修繕や機能回復等を考え、場合によっては、湛水防除

施設への対応を求めることも考えていきます。

## 海岸を活用した持続可能なまちづくり

**問** SDGs(持続可能な開発目標)や新しい価値観の取組が地域全体で求められている今、行政や地域住民にとつても、持続可能なまちづくりには、対話やビジョン、アイデアや優しさ、「おもてなしの心」など、それぞれが重要と考えますが、市長の見解を伺います。

**答** 市長 本須賀海水浴場が、令和元年に国際環境認証のブルーフラッグを取得しましたが、この認証継続のためには、ビーチにおける持続可能な発展の実現を目指し、さまざまな厳しい基準をクリアすることが必要となります。

その取組の一例として、海岸利用者や地域住民に対する環境教育セミナーの開催や、市で実施する海岸清掃のほか、地元のスーフィン愛好家を中心とした団体による月1回のビーチクリーン活動も行われています。

こうした一連の取組が、美しい砂浜を維持し、自然環境を守る意識が次世代の子ども達に継承され、さらには、観光客の増加につながるものと考え、この取組こそが「持続可能なまちづくり」であり、「おもてなしの心」であると考えます。